

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 16 章 4b~15 節>

①イエス様がおられなくなった悲しみを打ち破って下さる聖霊！

イエス様から「私は父なる神様のもとに行く」と言われて、弟子たちの心は悲しみで満ちました(6)。しかし、イエス様は、「聖霊をあなたがたのところに送るから大丈夫だ」と言われたのです(7)。確かに、弟子たちはイエス様がおられなくても、世界中に福音を宣べ伝えていけるようになりました。聖霊、それは、私たちのところに来て下さると、イエス様なしの悲しみが打ち破られるものなのです！

②イエス・キリストに栄光を与える「真理の霊」！

この聖霊について、イエス様は、「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、あなた方には理解できない。しかし、その方、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」と言われています(12-13)。真理と言っても色んな真理があります。どんな真理を考えておられるのでしょうか？ この後、「その方は私に栄光を与える」と言われています(14)。ここで「私」とはイエス様のことです。ですから、聖霊とは、イエス・キリストについて（その十字架の死と復活の意味が）分かり、イエス様に栄光を帰すようになる、そういう真理に私たちを導いて下さるもの、それが聖霊だと言われているのです！

③さらに与えられている恵み、それは主を頭とする群れ！

ヨハネ福音書ほど、私たち一人一人に来て下さる聖霊について詳しくイエス様が語られたことを告げている福音書はほかにありません。しかし同時に、ほかの福音書にはない、イエス様がされた「ぶどうの木とその枝の話」(15章)、「羊飼いと羊の話」(10章)も載っています。ヨハネ福音書の時代(紀元90年頃)、それは主の群れ、教会について教えている話として覚え直されました。聖霊は一人一人に与えられて、イエス様のことが分かるようになります。しかし、その後、私たちがイエス様という幹に繋がった枝となり、また、イエス様という羊飼いに養われる羊であり続けることも大切なのです。